

平成30年度第2回安城市総合教育会議進行

日 時 平成31年1月17日(木)
午後3時35分から午後5時

場 所 安城市役所本庁舎 第10会議室

出席者 市長 神谷 学
教育委員会 杉山 春記 教育長
加藤 滋伸 教育長職務代理者
船尾 恭代 委員
近藤 倉生 委員
伊奈 希 委員

出席する職員 永田博充 企画部長
神谷澄男 行革・政策監
近藤芳永 教育振興部長
大見 智 生涯学習部長
横山真澄 企画情報課長
神谷 徹 総務課長
上原就久 学校教育課長
久野晃広 生涯学習課長
鈴木栄一 文化振興課長
深谷英衛 企画情報課課長補佐
上原幹久 生涯学習課施設管理係長
齋藤弘之 文化振興課文化財係長
宇波聖香 企画情報課主事

傍聴者 なし

開 会 午後3時35分

日 程

第1 開会

第2 市民憲章の唱和
(市民憲章唱和)

第3 あいさつ(要旨)

市長：本日の議題が大きく二つある。

一つ目は、2カ月前にリニューアルオープンしました文化センターのプラネタリウムについての運営状況について、二つ目は、本證寺境内整備事業などの文化財の保護活用についてである。皆様のご意見を拝聴したい。

教育長：3学期開始とともに、10日ほど経つが、落ち着いてスタートすること

ができた。ただ、インフルエンザで昨日から 10 校 16 学級で学級閉鎖している。特に中 3 の子どもたちについては、入試シーズンに突入をしていくため、大変心配をしているが、早く終息をして万全な体制が取れるようにしていきたい。

市長：中 3 に学級閉鎖は出ていないか。

学校教育課長：中 3 のクラスでは学級閉鎖は出ていません。

第 4 議題

議題（1）「新プラネタリウムの運営状況と今後について」

生涯学習課長説明する。

教育長：安城星と水の物語については、市長の肝いりの策でありますので、経緯や想いをお話しいただきたい。

市長：和泉町に都築弥厚の銅像があり、そこで年 1 回都築弥厚を顕彰する弥厚祭が行われている。

5 年ほど前、私が弥厚祭に出席したときに、地元町内会長から、最近の子どもは都築弥厚のことも明治用水のこともほとんど知らない、と聞いた。小学校 4 年生が郷土の歴史の中で学んでいるものの、テストに出される事柄でもないので、子どもの記憶にはあまり残らないと想像できた。ちょうど小学校 4 年生は全員プラネタリウムを観るため、その題材にしたら記憶に残るのではないかと考えた。ただ、当初は星の世界と明治用水や都築弥厚をどう結び付けたいかわからなかった。

平成 27 年の都築弥厚生誕 250 周年記念のときに作った冊子で、伊能忠敬が測量で安城に来たときに、都築弥厚と面会したと書いてあった。伊能忠敬の地図作りは、北極星を観測して自分の立脚点の緯度経度を測っていた。また、都築弥厚の依頼を受けて碧海台地の地図を作った石川喜平も伊能忠敬と同じような手法だったとわかり、私の中で、「星の世界」から「地図作り」、「明治用水」と一体的に結びつくようになり、これらを融合させる形で新番組を制作しようと思った。

昨年の 10 月の初旬に出来上がった作品の試写会が行われた。観る前は自分の提案でつまらない番組になっていたらどうしようと不安だったが、想像していた以上に素晴らしい番組になっていて胸をなでおろした。子どもだけでなく、大人にも観ていただきたい。学校の先生に観ていただき、先生たちが良かった

と子どもに吹聴してもらおうと子どもが観に行きたいとなり、保護者と一緒に観に行き、大人も観てみたら良かったと思ってもらえると良いと思い、PRをしているところだ。

近藤委員：私も昨年観た。大人が観ても感動的だった。あとはどうやってPRするかだ。PRをして皆に普及が進むとよい。

市長：オープン以来、明治用水土地改良区、農業委員会、JAなど関係団体の方にご覧になっていただいている。今後も関わりのある人たちに観てもらって、皆でブームが作れるとよい。

船尾委員：私も観たが、とてもきれいな映像で、しかもプラネタリウムなのにストーリーがしっかりとあって驚いた。一度観ると面白いということがわかるのか、周りの人ももう一度観たいと言っていた。ロコミで広がっていくのが宣伝方法として一番良いと思うので、ロコミを大事にしてほしい。

市長：船尾委員は今回の番組を観て、地域の歴史を再発見したか。

船尾委員：はい。伊能忠敬と安城がつながっているなど、知らないことも多く出てきて、本当に面白かった。

市長：伊能忠敬について私に関心を持ったのは、千葉県香取市にある伊能忠敬記念館に行ったことがきっかけだ。伊能忠敬記念館には、天文観測の道具が多く置いてあり、それがなんとなく頭に残っていた。今回都築弥厚が伊能忠敬と出会ったというところから、プラネタリウムの番組作りに繋がった。色々なことを見聞きしておくのは大事だと改めて感じた。

伊奈委員：小学校4年生が観覧するとき、各学校のスカイラインが出ると聞いた。これは子どもにとって印象深いものとなる。自分の子に感想を聞いてみたら、とてもキラキラしていたと言っていた。中身に関しては難しかったようで、子どもがもう一度観たいと思うのはなかなか難しい。そこに測量体験が出来るとか、関係のあるグッズが買えるとかプラスチックのものがあると、親も連れてもう一度一緒に行くのではないか。

市長：せっかくなら観て終わりではなく、家に帰って振り返ることのできるグッズを販売してもいいかもしれない。

職務代理者：今まで観た番組の中で一番良かった。最初、星と水の関係がどう結びつくのかと思っていたが、安城の歴史と星座がうまく結びついていて素晴らしいかった。

入場者数の推移が書いてあったが、入場者数にとらわれることなく、色々な機会に色々な人に観ていただければいい。

将来的には、歴史博物館やデンパークとセットにしたり、測量体験などの科学的な要素を付け加えたりすると集客力が増えるのではないかな。

市長：続編を作ってはどうかという話をされることがあるが、しばらくはあの映像でやっていきたい。

近藤委員：番組の映像もストーリーも面白いので、どこかのコンペに出したらどうか。

市長：以前、あちこちで上映すればいいじゃないかと言われてたが、あの番組はアナログとデジタルのハイブリッド型の機器で映像を映し出しているようになっているため、他のところではうまく映らないのではないかな。

近藤委員：映像の美しさももちろんだが、ストーリーが非常に良い。平面画面で観ても十分それは伝わるので、機会があれば挑戦したらどうか。

また、今の郷土読本の中には測量の苦労話が載っているわけではないので、今度改訂するときには、この番組に関係する題材を入れて作ると良いのではないかな。

市長：今度の改訂では出来るだけ番組に関する要素を入れて、学校で勉強してからプラネタリウムを観るようにすると理解が深まるのではないかな。

議題（２）「文化財の保護・活用について（本證寺境内整備事業）」

文化振興課長説明する。

職務代理者：本證寺は、小さな頃からの遊び場のようなところなので、公園整備の計画があるのは嬉しい。

本證寺は、お寺の行事が村の行事としても行われている。子どもが参加できるイベントだったり発表会だったり色々と行っていて、そういう時はとても賑

やかなイメージがある。うまく活用すれば、近所の人だけでなく他の地域の方にも楽しんでもらえる施設になる。

南桜井駅から徒歩で10分から15分くらいかかるが、ハイキングコースの一部となっているので、お祭りやハイキングイベントをからめてやったりすれば色々なことが出来るのではないかな。

歴史的にも評価をされている本證寺が、さらに有名になっていくのは嬉しい。

市長：本證寺フェスティバルやハスの開花の時期は人が多くいらっしゃる。そのとき、車は門から入って本堂の周りにも停めている。そうすると、せつかくの風情を楽しめなくなってしまう。お祭りのときはどこに停めてもらっているのか。

文化振興課文化財係長：本證寺フェスティバルのときは、アイシン・エイ・ダブリュの駐車場をお借りしている。そこからシャトルバスも出している。

船尾委員：今までも本證寺が有名なのは知っていたが、この前の本證寺フェスティバルのときに初めて行った。名鉄電車で行き、南桜井駅から歩いたが、結構遠かった。帰りはバスに乗ろうかと思ったが、時間がうまく合わなくて結局歩いた。駐車場がわかりやすく確保されているといい。

市長：南桜井駅には本證寺までの案内図はあるのか。

文化振興課文化財係長：案内看板がある。スマートフォンをお持ちであればナビゲーションもしてくれる。

伊奈委員：本證寺は教育委員になるまで私は知らなかった。先日、小学生の子どもを二人連れて初めて行った。天気の良い日で、子どもも景観に大興奮していた。景観を損なわない公園が出来るといい。あと、駐車場とトイレが整備されるといい。

近藤委員：本證寺は歴史的に価値のあるものをたくさん所有しているだけでなく、他の史跡と違うのは、今も生きているお寺だということ。本證寺は今でも檀家がいる。檀家がいる生きたお寺に公共的な施設を作ることになるから、普通の史跡公園とは本質的に違う。

教育長：もう一度行きたいと思われるような史跡公園を作るためには、子ども

を巻き込んだイベントを考えていくことが有効だ。子どもが楽しめる、あるいは学習できるものが出来るといい。

先ほどの議題のプラネタリウムについて、私も6回観た。席も色々変えて観ている。毎回新しい発見が出来て、まだこれからも新たな発見が出来ると感じている。私の孫も4年生で、今回プラネタリウムを観ているので、感想をきいたところ、印象に残ったのは自分の校舎が映った部分で、もう一度観たいと言っていた。子どもが観たいというと、保護者、兄弟が付いてくる。それは本證寺も同じことで、子どもを起爆剤として考えていきたい。

市長：子どもがもう一度行きたい施設ということでアンフォーレが思い浮かんだ。目標100万人のところ、オープン後1年間で118万人入ってくれた。デンパークなど他の施設も同じだと思うが、初年度は珍しいので皆さん入ってくれるが、次年度からは減ってくる。その中でアンフォーレは2年目の方が初年度より多く入ってくれている。テスト週間になると中高生が非常に多く来ている。

アンフォーレ本館への入場者数が増えているのは、広場やエントランス、ホールでのイベントの効果なのではないか。1年目は、使う側もどうやって使おうか、どこまでなら許されるのか、色々試行錯誤していたし、貸す側も、1年やってみて反省点が色々見付き、それを2年目に生かすことが出来ているのではないか。ただ、アンフォーレ本館への入館者数は増えているが、図書情報館は残念ながら減っている。それは昨年のオープン1か月が非常に伸びていたためだ。それ以外で比べると、対前年比90%くらい。一方、各学校と図書情報館をオンラインで結んで、学校まで必要な本を届けるサービスを始めたところ、各学校へのいわゆる団体貸し出しはアンフォーレオープン前と比べると2.7倍に伸びている。アンフォーレから遠い子どもたちでも、アンフォーレ効果が及んでいることはご承知おきいただきたい。

第5 その他

第6 閉会 午後5時